(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2014-121517
(P2014-121517A)
(43)公開日　平成26年7月3日(2014.7.3)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A47K 7/02	(2006.01)	A47K	7/02	Z	2D034
		A47K	7/02	C	

審査請求 未請求　請求項の数 1　書面　（全 3 頁）

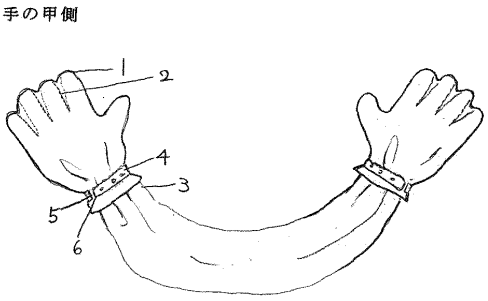
(21)出願番号　特願2013-200544 (P2013-200544)
(22)出願日　平成25年9月6日 (2013.9.6)
(31)優先権主張番号　特願2012-270761 (P2012-270761)
(32)優先日　平成24年11月22日 (2012.11.22)
(33)優先権主張国　日本国 (JP)

(71)出願人　512319472
秦　澄江
神奈川県麻生区王禅寺東２丁目１９－７番地
(72)発明者　秦　澄江
神奈川県川崎市麻生区王禅寺東２丁目１９－７番地

Fターム(参考)　2D034 CC01　CC04　CD01

(54)【発明の名称】手袋型ミトン付入浴用ボディタオル

(57)【要約】　（修正有）
【課題】手袋型ミトンの付いた入浴用ボディタオルを提供する。
【解決手段】手袋型ミトン１を、入浴用ボディタオル２の両端に設けた。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
手袋式ミトン（１）を、入浴用ボディタオル（２）の両端（手のひら側）に設けた手袋式ミトンの付いたボディタオル。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、手袋型にしたミトンをボディ洗浄タオルの両端に設けた入浴用ボディタオルに関する物である。
【背景技術】
【０００２】
従来、ボディタオルとミトン又は手袋は、個々の物として使用する物であった。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】
【特許文献２】
【非特許文献】
【非特許文献１】
【非特許文献２】
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
これは、次のような欠点があった。
ミトンでは５本の指が自由に使えず、又入浴用の手袋は密着性が強く着脱も容易ではなく速乾性に欠けた。ボディタオルだけでは足の指の間等、細かい部分が洗いづらく、お年寄りなどは背中を洗うのも洗いづらかった。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
手袋型のミトン（１）を入浴用ボディタオル（２）の両端に設ける。
本発明は、以上の構成よりなる手袋型ミトンの付いた入浴用ボディタオルである
【発明の効果】
【０００６】
入浴用ボディタオル生地を使用する事で水切りが大変よく衛生的であり、５本の指が自由に使えるため、足の指の間、耳周り等、隅々まで洗う事が出来る。又、ボディタオルが付いている事により背中も洗うことが出来る。お年寄りなど背中が上手く洗えない方でも、手袋型ミトンに手を入れる事で背中も洗う事が出来る。
【図面の簡単な説明】
【０００７】
【図１】　本発明の正面図である。
【図２】　本発明の低面図である。
【発明を実施するための形態】
【０００８】
以下、本発明を実施するための形態について説明する。
入浴用ボディタオルの生地を使用したミトンの指の部分を山形にし（１）指と指の間をＶ型に縫う（２）ボディタオルの両端を手袋ミトンの手首部分の幅に合わせ手のひら側の手首部分と縫い合わせる（３）手首部分にゴムを通すためのテープ等を巻いて縫う（４）この際ゴム交換用に間隔をあけておく。
ゴムを通す（５）
本発明は、以上にような構造である。

これを使用する時は、手袋型ミトンと一体になったボディタオルを使い隅々まで全身綺麗に洗う事が出来る。

【実施例】

【・・・・】

【産業上の利用可能性】

【・・・・】

【符号の説明】

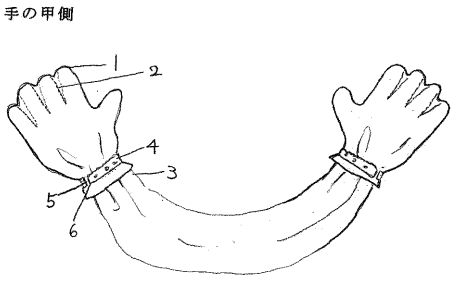
【０００９】

1　指先部分を指の形、山型にカット
2　指の間をＶ型に縫う
3　ギャザーを寄せたボディタオルを手のひら側に縫い付ける
4　テープ、リボンを巻き縫う
5　ゴム交換用に間隔を取る
6　ゴムを通す

【受託番号】

【・・・・】

【図１】



【図２】

